

平成 25 年度第 2 回 苫小牧市民文化芸術審議会 会議概要

日 時：平成 26 年 3 月 20 日（木）

13：30～15：05

会 場：市役所第 2 庁舎 1 階会議室

出席委員 森山副会長、伊藤委員、内潟委員、佐藤委員、椎原委員、千葉委員、
畠山委員 計 7 名

欠席委員 窪田会長、上田委員、中尾委員 計 3 名

教育委員会 スポーツ生涯学習部 木戸次長

生涯学習課：佐々木課長、沢渡主査、木戸主査、鈴木主査、
千葉アドバイザー

美術博物館：片石副館長

1 開会 (進行) 課長

2 あいさつ 副会長

3 議事 (進行) 副会長

- (1) 平成 25 年度苫小牧市民文化芸術振興助成事業結果について (報告)
平成 25 年度助成事業結果及び事業の評価についての基準を事務局
から説明

委 員：以前アウトリーチで、小学校に行かせていただいたのですが、その
ときに教育委員会の方がいらして、評価に来たのだなと思った
のですが、これらについて、今まで実績や実態調査はやられていな
かったのですか。

主 査：先ほどの説明は、助成事業に対しての評価ということで、アウトリ
ーチ事業は別の事業になりますので、アウトリーチ事業については、
基準を設けて評価したということはありません。ただ、アウトリ
ーチ事業にも職員は出向いております。

次 長：助成事業自体は、評価する、しないとは別に以前から職員が必ず見
ています。今回は、見た上で評価をしたということです。

委 員：わかりました。

副 会 長：評価について、A から E の 5 段階を A・B・C の 3 段階とし、評価
の基準が明らかになったというか、はっきりしてすっきりしたなど

という感じを印象として受けました。あくまでも、計画が出されて、その結果に則って行われているか、それから目論見どおり入場者が集まったかということが評価の大きな中身であるということで、その事業が芸術としてどうかということではなくて、計画に対する評価であるということで、すっきりしたように思いました。いかがでしょうか。他にご意見はありますか。

・・・異議なし・・・

副会長：募金額について、ゼロというところがけっこう多いですね。それは、募金箱をもっていかなかったというのと、ふさわしくない場所というのもあったのでしょうか、それは特に強く進めて、助成を受けているのであるから、この趣旨に則って特に募金にもご協力を、ということを重ねて要請してはいかがでしょうか。それでも、だめなものだめですか。

主 査：内定したときに文書でお願いし、事業開始の数日前に電話でお願いしているのですが、スタッフの方が少ないなどの理由で取りに来られないということだと、今まではそれ以上、強くぜひに、ということまではしていませんでした。

副会長：わかりました。司会者が一言声をかけるだけでも随分違います。入場者が、そういうのがあったのかということに気が付いていないんですね。ですから、一言声をかけてくださったところは、募金が集まっていますというようなことくらいは、伝えてもいいかなと思います。

(2) 平成26年度苫小牧市民文化芸術振興助成事業申請について（審議） 2月に実施した26年度の助成事業申請の内容について事務局から説明

<主な質疑>

委員：会場になっている文化交流センターとエルキューブはどこにありますか。

主 査：文化交流センターは、本町のアイビープラザです。エルキューブは、王子町にあるライブハウスといったような会場で、公共施設ではありません。

委員：わかりました。

副会長：本日の審査は、欠格事項、審議の対象になりそうなのは、今のところはないわけですね。皆さん、本日、交付要綱が配られていますので、それをよく眺めながら、欠格がないかご判断いただければと

思います。

委員：「お寺で落語会」が昨年より高額になっていますが、内訳はどのようになっていますか。

主査：昨年は、申請時は2名の演者という申請でしたが、今年は3名で、出演料や旅費が増えたことと、落語家の方をお呼びするときに近隣の市町村と一緒に呼ぶ場合は低額になることもあるが、今回は未定ということで、苫小牧だけで呼ぶことで予算を組んでいるので昨年より高くなっているということでした。

副会長：「地元音楽家の夕べ」の事業概要は、未定ということで、これくらいの内容でも、地元の演奏家が演奏するという程度の内容であればよろしいということですか。演奏の内容がわからなくても、いずれわかることにはなりますか。

主査：本来であれば、この時点で決まっていれば詳しく書いていただくのですが、今回、詳細は未定ということで、お受けしました。内定後、通知しまして、実施2か月前までには再度詳しい内容を申請していただくこととなります。今回は未定ということではありましたが、今後はもう少し詳しくお聞きして、加筆してもらおうなど気を付けたいと思います。

副会長：わかりました。この団体は、21年度から23年度まで連続して受けていますので、中身については安心していて確かということがあるでしょうが、もう少し具体的にいただいておりますので、よろしくお願ひします。

委員：「チェロはうたう」と「地元音楽家のゆうべ」は、入場料はお取りになるのでしょうか。

主査：「チェロはうたう」は、一般2,000円、学生1,000円、子どもさんが無料とお聞きしています。「地元音楽家の夕べ」は、大人が1,000円、学生が700円ということでした。

委員：「チェロ」は、入場者を80名と予定していますが、三星さんの会場費は無料だと思うのですが・・・

委員：ピアノの調律料と使用料がかかるようですよ。

委員：そうでしたか、以前に、ただと聞いたような気がしたものですから。ピアノの使用料、調律代、会場費がかかって、入場料の2,000円と合わせて助成が8万円というのは、何か特にかかるところはありますか。

委員：演奏者の謝礼ですよね。

委員：どちらから来るのかわかりませんが、謝礼と交通費とかでしょう

かね。

- 主 査：東京からおみえになる演奏者の出演料が10万円、交通費が5万円と計上されています。その他、ポスターやチラシの印刷代です。
- 副 会 長：基準に照らせば特に問題はないということで、よろしいですか。
- 委 員：私たちピアノをやるものは、東京から先生をお呼びして、8万円をいただくと助かりますね。なくてもできないことはないと思いますけど。
- 委 員：委員のおっしゃることはよくわかります。他にピアノをされている方でも、自助努力でコンサートをされている方はいっぱいいらっしゃるの、その辺のところ、いただけるものならいただきたいけれども自助努力でされている方もたくさんいらっしゃるの、その辺がちょっと・・・
- 委 員：やはりマイナスは出ますよね。やはりお呼びすると変なことはできませんものね。
- 委 員：この先生の演奏会は、何年かごとにされていますが、今まで文化会館でされていて、先生の持ち出しがかなり高額で、それで負担がたいへんだということで三星ホールに変えて、それでもやはり持ち出しが多いようですので。80名といっても全部が売れるわけではなくて、招待もあると思いますし、持ち出しが大変だということは以前からお聞きしています。
- 委 員：クラシックには付き物ですよ。身内、親類、お友達プラスアルファはほんの少しというのが現実です。
- 副 会 長：三星ホールの席数というのはどれくらいですか。
- 委 員：演奏者とお客様の間隔も必要ですから、100名くらいでしょうか。
- 委 員：文化会館から比べたら、会場が少しさびしいですね。
- 委 員：ちょうどいい場所がありませんのね。アイビープラザが300名くらいで、クラシック専門でできるといいのですが、ちょっと極端になってしまいますね。
- 委 員：美術館ができましたので、ぜひイベントホールもよろしく願います。
- 次 長：市民の方の声が大きいです。
- 委 員：「縄文文化の講演会」ですが、経費の削減で会場を小さくしていくと、いう話もある中で、昨年の80名から予定では150名で会場もホテルになって、申請額が高くなったというのは、会場費が原因でしょうか。
- 主 査：会設立10周年記念ということで、会場がホテルに移ったことと、

今までは、地元や近隣の方を講師として呼び寄せていたのを、今回は大学教授を東京から来ていただくということで、講演料が12万円計上されていて、今までより高額になっています。

委員：わかりました。

副会長：だいたい例年どおりの一次申請ということになりますか。第2次申請が8月にあるかもしれないということですね。必ずやるんですか。

主査：予算に満たなかったので、8月に申請期間を設けて再募集する予定です。

副会長：それでは、この申請はよろしいでしょうか。では、この26年度の助成申請について、助成希望額を内定することに決定いたします。ありがとうございました。

(3) 平成26年度文化芸術事業について（報告）

(ア) 文化芸術振興事業、(イ) 美術博物館事業 (ウ) 苫小牧市民文化芸術振興基金について、事務局から説明

<主な質疑>

委員：今、基金の繰入が、総額で1,180万円ということですが、毎年これくらいですか。

次長：今までは、ほとんどが一般財源という、言ってみれば市民の皆様の税金を中心に充てていて、基金の残高は、1億6千万円くらいあります。本来利息が高ければ基金を減らすことなく、利息でかなりの事業ができるはずなんです。ところが、皆さんご存知のように、ここ20年くらいは超低金利ですので、基金があっても、そこからほとんど利息が生まれず、数万円といったところなので、基金は寝せたまま、いわゆる塩漬けのような形になっているということです。例えば、1億6千万円を1千万円ずつ使うと16年でなくなる。ただ、もともと一般財源のお金でやっている事業ですので、なくなれば一般財源のお金を使うということです。市には、他の基金、例えば財政調整基金など様々ありますが、それを私どもの財政の担当が、どう使ったらいいだろうかと広い範囲で検討するということです。ですから、基金がなくなったら事業をやらないということではなくて、塩漬けということではなくて、積極的にこれも使っていきましょう、そうすることによって、今回の美術館などの事業も、継続的に運営できるということが可能になるということです。全額

ではないですが、一部を基金から取り崩すことによって事業を実施するという政策的な判断で、今回こうなったということです。

副会長：よろしゅうございますか。

委員：はい。

委員：アートフェスティバルのことで、広報費も使われていると思いますが、集客率がすごく低いと思うんです。昨年、私の友人の二胡の方が、夕方演奏したときに誰もお客さんがいなかった。20分から30分近く待ってやっと6人くらい来たかなということだったんですよね。私も友人をだいぶんお誘いしているんですけど、そういうことがあること自体を知らない人が結構いまして、広報の中に小さくは載っているんですけど、内容がわかるような目の引くような大きめのポスターをコミセンに貼っていただくとか、ちょっと広報が足りないのではないかと思いました。

課長：PRにつきましては、できる限り毎年、何とかお客さんを集めたいということで、やっているのですが、去年はたまたま雨にたたられてしまったということで、3日間どしゃ降りの雨ということで、残念な結果になってしまったということもありますが、今後もできる限り周知のために公共施設にポスターを貼ったり、インターネット等も使いまして、PRしたいということで、もっともっと力をいれていきたいと考えております。

委員：コミセンにも置いてありましたが、プログラムも三つ折りで小さいので、目立たなくて、見過ごされてしまうので、少し大き目のチラシで目につきやすいようにした方がいいと思ったんです。

次長：文化公園アートフェスティバル自体が、文化公園は、意図的に配置しているというか、博物館や図書館の文化が集積するようところで、公園を合わせて作っているんですね。実は、これは今の市長があそこをもっと活用すべきでないかという発想で考えなさいということで、私どもで指示を受けてやっていることで、4年間試行錯誤しながらやってきたんですね。かなり、いろいろな方の労力やお知恵を拝借してやってきたんですけど、いまひとつ認知されていないということが、現実として私どもも認めざるを得ないところがあります。それで、今年は予算を上げて、中身をもう少し濃くするというか、対応する。今のアートフェスティバル自体が演奏する方の発表の場がここであって、発表する場があつてずっと継続的にされている方もいらっしゃるけれども、個人でやっていらっしゃる方で、あまり発表に恵まれない方にも使っていただこうという趣旨でやっ

て、もう一方で質の高い方をお呼びして、例えば音楽だけでなく、図書館だとギターを弾いて朗読するというような活動とか、博物館ではナイトミュージアムを連携させたりしているので、もうちょっと知恵を出して、予算も付いたので、もう少し多彩な、ここだけには行きたいというようなところをいくつか散りばめて、盛り上げられたらいいなと思っているんですよ。ですから、皆さん方のいろいろな意見をいただいて、それを集めてまたやりたいと思いますし、PRについても、おっしゃるとおりだと思います。チラシも字が小さくて、たたんだらわからないということもありますので、そういうことも含めて、実行委員会でお話させていただきたいと思います。

委員：おとしは、いいお天気だったんですけど、本当にパラパラの方しかいなかったんですよ。PMFの方が出られても、あれくらいしかお客さんがなくて、申し訳ないような気がしました。PRですかね。小学校に案内状など出すのはいかがなんでしょう。

委員：私は車で移動するので、やはり駐車場の問題もあると思うんです。私は、図書館に行きたかったんですけど、駐車場がいっぱいで行かれなかったとか、よく公共交通機関を利用するようにといっても、車に慣れている人はその日だけバスというのはなかなか大変だと思うので、これだけの予算を他よりも大きくとって、数日のことなので、それだけの効果を上げて、目的を達成されるようにしていただければと思います。

課長：これは、行政単独の事業でなく、副会長もそうですが、市民有志の実行委員会で、一緒に企画してできるだけ多くの人に来ていただけるように努力していきたいと考えています。

副会長：私は、副実行委員長をやっています。

委員：時期が、真夏のすごく暑いときですよ。

副会長：そうですね。そこしか、今のところ取れそうにないということですが、どっちにしても5回目でも試行錯誤なんですよ。まだ、市民に十分認知されていない。市長の思いは、去年のキャッチフレーズの、「新しい芸術空間」なんですよ。まさに美術館ができて、新しい芸術空間ができて、それにふさわしい何かをやろうと思ったら、雨にたたられて、その新しい芸術空間が必ずしも活かせなかった。ですから、この280万円が雨にも耐えられるように、そのところが、ある意味、政策予算、どっちにしても、これは文化予算が多くつくというのは喜ばしいことですので、それをどうやって活かすかということを試されているような気がしますね。試行錯誤が、市

民に、あの時期に文化公園に行ったら、素晴らしいものに出会えるということが認知される、その認知を徹底させる時期ということですね。頑張らなきゃいけません。

委員：以前札幌の芸術の森に行ったら、そのあたりが大渋滞で、ある展示会と、その日は夏休み最終日に近いくらいの日で、子どもたちの工作づくりというか、夏休みに提出物を一緒に親子で作れるというイベントになっていて、こんなに人が来るんだと思ったんですけど、何かちょっとそういうアイデアとかもあれば、それで夏休みの工作OKという感じで何かあればいいのではないかという感じですね。

委員：ちなみに、今年の文化公園アートフェスティバルの目玉というか中心テーマは何ですか。

課長：現在は、まだ具体的に名前を出せる状況ではないですが、できれば全国的に知名度の高い方をお招きしたいと、それとともに文化公園にステージ的なものを設置して、公園全体を盛り上げ、充実させていきたいと考えています。

副会長：美術博物館展示の方は、いかがですか。美術博物館は、1から4の企画展と、青森県立美術館コレクション展これが、年間の予定ですか。

副館長：そうですね、これが年間のスケジュールの中に組み込まれています。縄文展につきましては、5月3日から1か月間くらい、また、これにあわせて、宮沢賢治の世界の資料を展示します。その次が青森の特別展で、7月19日から9月中くらいまで。ちょうど夏休み期間ということで、先ほどのアートフェスティバルとあわせて行います。棟方志功の版画表現、珍しいところでは、ウルトラ怪獣のデザインで有名な成田 享さんや絵本の11匹の猫で知られる馬場のぼるさんの原画というかなりいろいろなジャンルの展示を行って皆さんが楽しめる、ちょうど夏休みにあわせたような内容で実施いたします。そのあと9月の終わりくらいから、こどもとおとなの美術展として実施しますし、11月の中旬から12月14日はちょうど討ち入り日ですが、忠臣蔵を中心とした版画の作品を53点公開してやるというような、時期にあった作品の展示をやったあと、年が明けて1月から2月に苦小牧の美術史をやります。それから、2月の中ごろから3月にかけて、アイヌ文化の関係ですね、博物館関係の展示を行う予定で、それを含まれますと、全部で7つですが、途中2週間くらい展示物を設置する期間を含めると、1年間びっしり通して実施をしているということです。

副会長：どうもありがとうございました。他にご確認することはありませんか。振興基金については、先ほどご質問がありましたので、(ア) (イ) (ウ) の事業について、よろしゅうございますか。それでは、この事業についての確認をさせていただいたということにします。

(4) 苫小牧市民文化芸術振興推進計画について

現在の計画の概要、第2次振興推進計画の策定スケジュール、今後の方向性について、事務局から説明

<主な意見>

副会長：第2次苫小牧市民文化芸術振興推進計画の策定スケジュールを中心にご説明いただきましたが、すべて26年度から具体的に計画を策定していくということになりますので、今日はそのスケジュールを伺ったことと、考え方に視点をご説明いただいたということです。ひとつひとつどうだということになると、今日の会議では終わりませんので、何か特別にご質問があれば伺っておきたいと思います。ある意味では、苫小牧市文化芸術審議会が一番大事な仕事がこれだというような気がいたします。苫小牧の文化振興についての推進計画がどんなふうこれからできるかというところが、非常に大事な問題ではないかと思います。26年、27年にかけてきちんとした推進計画ができるよう、私たちも関りたいというふうに思います。

委員：学校関係なんですけど、先ほどのアートフェスティバルでも委員さんからお話がありました。芸術に対する理解をどう深めていくかという部分で考えると、前回の資料を読ませていただくと、小中学校への支援という形で入っていますが、そのような中で、やはり子どもたちにもそれをどう理解させていくかという部分も積極的に行っていただきたいという思いがあります。例えば、アウトリーチですか、芸術家さんが学校に来ると、必ずその次、この方は何を作っているのだろうと、例えばアートフェスティバルでその人の作品を見てみよう、どんなものを作っているのかなと興味、関心がわいてきますし、それと同時に先生方が来てくれたから行ってみようかという気持ちになるという、直接的ではないかもしれませんが、子どもたちの視点を通して考えて戴きたいというふうに思います。

副会長：貴重なご意見、ありがとうございました。子どもたちが参加しないと苫小牧の文化の将来は見えてこないと思います。

4 その他

次長から、6月で委員の2年間の任期が満了になること、この間、貴重なご意見をいただいたことへのお礼

5 閉会

15時05分終了